

伝えよう 平和へのメッセージ

～ 授業や学校行事を通して平和への思いをつなげよう ～

1 活動の流れ (7月末～11月上旬のとりくみ)

2 活動の実際

3 所感

今次教研で論じられた内容と今後の課題

今次教研では、沖縄大学の宮城公子さんと紀北東小学校の谷良純さんを助言者に迎え、それぞれの報告書をもとに、以下の 2 本の柱にそって討議を深めた。

(1) 地域教材や聞き取りを生かした平和学習

員弁支部の木下拓也さん（小学校）から「語り部から受け継いだ平和学習会～今話せるうちに話しておかないと」という報告がされた。十数年前から全校あげての「平和学習カード（戦争体験聞き取り調査）」のとりくみをされている。貴重な聞き取り調査をコピーして学校に保存していくとよいのではないかという意見が分科会参加者から出された。今年度は愛知県豊川海軍工廠での空襲体験をもつ 89 歳の地域の方のお話を全校で聞き取った。

三泗支部の須藤さん（中学校）から「戦争の恐ろしさを風化させないために」という報告がされた。「火垂るの墓」鑑賞、三重県内にある戦争の爪跡を学習、『新・戦争のつくり方』を学び、夏休み中に、生徒たちがレポートを書くというとりくみを実践された。約 2 割の生徒たちが戦争体験の聞き取りをおこなった。須藤さんは自ら三重県内の戦争遺跡・碑を訪ねて、生徒に紹介している。その熱意が生徒にも伝わり、レポート作成につながったことが指摘された。

(2) 学校行事や授業を通した平和学習

桑名支部の松田さん（中学校）から「平和をつくりだす教育をどのようにすすめるか」という報告がされた。中学 3 年の学年団の協力で英語・国語・社会・総合・学活と教科をこえてとりくんだ実践。英語で「オバマ大統領の演説」を聞き取り「オバマ大統領は謝罪する必要はないか、あるか」議論するという授業が報告された。生徒たちなりに「自分にできることは、まず学ぶこと。今、世界で起きていることの原因を学ぶ」などの意見が出された。

亀山支部の篠田さん（小学校）から「子どもたちと平和を求めて」という報告がされた。全校体制ですべての学年で何年にもわたって平和学習にとりくまれている。5 年生の学習を中心に報告された。亀山市歴史博物館の学芸員から防空頭巾や国民服などを見せてもらいながら戦争中の暮らしについて学んだ。「戦争の事実を多くの人に知ってもらうにはどうすればよいか」と考え、子どもたちは、平和を伝えるパネルを作ることにとりくんだ。

度会支部の大西さん（小学校）から「伝えよう平和のメッセージ」という報告がされた。6 年生と、国語・社会・総合・学活・音楽と幅広い領域の学習を展開された。子どもたちが「自分たちが次の世代の語り部になること」を学んだ実践。聞き取った戦争体験と、そこから自分たちが感じたこと・考えたことを学習発表会で群読・読み聞かせ・合唱（HEIWA の鐘）を組みあわせて発表。聞き取りに協力した祖母らが涙を流しながら発表を聞いた。

伊勢支部の木田さん（中学校）から「今、平和教育をすすめるために」という報告がされた。国語科の授業で「平家物語（扇の的）」を学習。那須与一は扇の的を射た後、与一の腕前をほめたたえ舞を舞う平家の男も射ることを義経に命じられた。戦場での上官の命令に従うのか否か、近代の戦争とも関連させて考えさせた。「握手」（井上ひさし）の学習では「国家をこえて、一人ひとりの人間を大切にすることが平和な世の中をつくる」ことを読みとった。

成果と今後の課題

いずれの実践報告も、実践者の熱意が子どもたちを動かしているということが指摘された。

そして、考えたこと・感じたことを子どもたちが学習発表会などで広く地域に「発表」していく実践も複数報告された。また、大がかりな「発表」でなくとも、子どもたちが考えたこと・感じたことを俳句や川柳にして「発信」していくことも有意義であり、すぐにできることだということも確認された。

また、ただ「事実を知る」だけでなく「そのことをどう感じた？ どう思う？」と問いかけ、子どもたちの考えを引き出す学習の大切さも指摘された。

直接の戦争体験をしていないわたしたち自身が「語り部」から聞き取った戦争体験を語り継いでいく「語り継ぎ部」となり、子どもたちと学び、考え、子どもたち自身も次の世代への「語り継ぎ部」として育っていくことをめざしたいということも確認された。

過去の戦争に学び「これからの戦争」を防ぐにはどうしたらよいか考える学習の必要性和「人権を守ること・憲法を守ることが、戦争をくい止めることにつながる」ということも話しあわれた。「日本国憲法」には「人権に関する条文」が 30 条以上ある、3 割以上も人権に関する条文があるということは、いかに戦中・戦前の日本では人権が守られていなかったのかということを示しているという憲法学者の指摘もあることも報告された。

課題としては、「憲法」「原発」「沖縄」などの現在進行形の問題を取り上げた実践が報告されなかったことがあげられる。しかし、分科会討議のなかで「子どもたち自身が『こんな憲法がいい』と考えたことを学習発表会で発表するという発信も一つの方法ではないか」という意見が出され「改憲」が話題になる今、二度と戦争をしないために、みんなが幸せになるために、より理想的な憲法を考えるということも意義があるのではないかという意見も出された。

総括討議では、四日市市に 1945 年 7 月 24 日に投下された模擬原子爆弾パンプキン（原爆投下訓練のための爆弾）の着弾地点と、その犠牲者が 71 年たって判明したこと、総合の環境学習としてエネルギーの問題を取り上げ、そのなかで原子力発電の問題について考えあったこと、中学校の生徒から 7 月に「先生、沖縄の高江ヘリパッド（10 月に、機動隊員による暴言事件が問題となった）の問題を知っていますか」と問いかけられ、意識の高い子どもたちがいることを改めて認識させられたことなども交流しあった。

1 活動の流れ（7月末～11月上旬のとりくみ）

- ① 夏休みの課題 ～戦争について調べよう～ 【7月末～夏休み】
 - ・調べ学習 戦争体験者に聞くことが望ましい 又（また）聞きでもOK
新聞、テレビ、ネット、図書もOK
 - ・A4用紙5枚にまとめる
- ② 資料集をつくろう【9月上旬】
 - ・夏休みのまとめを印刷し、冊子化する
- ③ 疑問を出しあい、さらに調べよう【9月中】
 - ・資料を読みあい、さらに追究する。
- ④ 七保の戦没者について調べよう【10月上旬】
 - ・戦没年、戦没場所を白地図にまとめる。
- ⑤ 七保っ子祭にむけて計画を立てよう【9月下旬～10月中旬】
 - ・発表内容を決め、練習計画を立てる。 ・シナリオの内容を考え、グルーピングする。
 - ・グループで、呼びかけの仕方を考える。 ・群読の練習をする。
 - ・歌の練習をする。
- ⑥ 平和についての意見文を書こう【10月中旬～下旬】
 - ・シナリオに意見を反映させる。
- ⑦ 学習発表会 ～伝えよう 平和へのメッセージ～ 【11月上旬】
 - ・練習の成果を発揮して、全校児童、保護者、地域の方々に思いをぶつける！

2 活動の実際

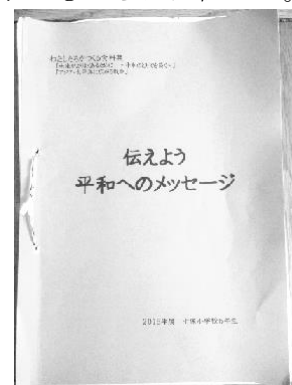
① 夏休みの課題 ～戦争について調べよう～

戦後70年をむかえた2015年、テレビや新聞等では例年より早い時期から戦争についての話題が取りあげられ、戦時中の人々の体験談や遺族の苦悩など、広く紹介されていた。こうした時代の節目こそ戦争について学び、平和について深く考えるよい機会であると考えていたわたしは、6年生の担任ということもあって平和学習の重みを強く感じていた。

社会科で太平洋戦争について学ぶのは、教科書の指導計画に従えば2学期末であるが、戦後70年として話題がクローズアップされているからこそ、この夏休みに有意義な学習をしてほしいと考え、夏休みの課題を子どもたちに提示した（※資料1）。特に強調して子どもたちに伝えたことは「戦争体験者の話を聞けることが一番望ましい」ことである。戦後70年を過ぎ、戦争体験者がどんどん少なくなっていること、子どもたちの祖父母でさえ戦後生まれであること等から、体験者の話を聞く機会がなくなっている。身をもって経験したことほど説得力のあるものはなく、そうした話を聞かせてもらえる最後の世代かもしれないと子どもたちには伝えた。

② 資料集をつくろう

夏休み明け、子どもたちは課題をしっかりとやり終え、全員が提出をした。事前に伝えてあったように、それぞれがまとめたことを印刷し、資料化（冊子化）した。これは、自分が調べなかったことについて知ることができるためである。子どもたちの調べたことをカテゴリ化してみると、大きく6つに分類することができた（「戦争の概要」「原子爆弾（核兵器）」「戦争体験者の話」「兵隊・出兵」「七保の戦没者（墓石調べ）」「戦時中のくらし」）。



③ 疑問を出しあい、さらに調べよう

自分たちのがんばりでできあがった資料集を子どもたちは喜ぶとともに、友だちが調べてきたことに興味をもちながら読みすすめる姿が見られた。こうしてたがいに情報を共有していなかで「これってどういうこと?」「もっと詳しく教えて?」と聞きあう姿が見られた。そこで、疑問に思ったことを書き出し、さらに調べる時間をとった。授業時間中にはPCや図書でしか調べられないため限界もあったが、聞き取りをした人にもう一度聞き取りに行き、教室で伝えるという積極性が見られる児童もいた。

④ 七保の戦没者について調べよう

夏休みに墓石調べをした子どもたちが数人いたが、七保地区が広域であるため全地区の墓石や殉国碑を調べるのは、子どもたちの力量面のむずかしさだけでなく物理的にもむずかしいところがあった。そこで、わたしの手元にあった「七保戦没者遺族会通信」をもとに、戦没者の戦没年と戦没場所を白地図にまとめる作業をおこなった。

作業を終えた子どもたちは、七保の戦没者が142人もいたこと、家族・故郷から離れた遠い地で亡くなったこと、自分の家族や親戚もそのなかにいたことなど、それぞれが事象の重みについて感じているようだった。(※資料2)

⑤ 七保っ子祭にむけて計画を立てよう

七保小学校の文化祭「七保っ子祭」では、例年、学習発表会と称して各学年によるさまざまな発表がされている。これまでに踊りや歌・劇などを披露してきた子どもたちで、最後の七保っ子祭も楽しい発表にしたいという思いはあったであろうが、長い時間をかけて学習し、考えてきた平和についての思いを発表してはどうかと提案したところ、子どもたちは賛同してくれた。そして、以下のように発表内容を計画していった。

a 読み聞かせ(群読)

低学年の児童に戦争について伝えるにはむずかしいところがある。そこで、絵本の読み聞かせをすることで、戦争の辛さや平和の大切さが伝わるのではないかと考えた。選んだ題材は、「おとなになれなかった弟たちに(米倉斉加年 著)」である。

b 呼びかけ(学んだこと・自分の思いを伝える)

自分たちが学んできたこと、思っていることで何を伝えたいか相談する際に、一人ひとりの興味について確かめた。学習発表であるため、個々の思いをばらばらに伝えるのではなく、学級としてのまとまり、統一感をもたせたかったわたしは、子どもたちの発言を聞きながら、大きく4つの内容でグルーピングをした(「配給」「疎開」「出兵・戦没者」「原子爆弾」)。

c 合唱

歌声が非常にきれいで、大勢の人の前でも堂々と歌う子どもたちが多かったので発表の最後は歌で締めたいと考えていた。選んだ楽曲は「HEIWAの鐘(仲里幸広 作詞・作曲)」である。初めてこの曲を子どもたちに聞かせたときは大いに喜び、賛同してくれた。

⑥ 平和についての意見文を書こう

こうして発表の大筋が決まった後は、練習をしたり、詳細を子どもたちと詰めたりという日々がつづいた。呼びかけの4グループを群読にも利用し、一文ずつA→B→C→Dの順に、グループごとにリレー読みをさせた。また、合唱については毎日の帰りの会で練習を重ねた。

ただ、呼びかけのシナリオについては、子どもたちの思いを強く反映させたいと考えていたため、わたしが一方的にシナリオをつくるのもどうかと思い、ある程度の素案は出しながら

もできる限り子どもたちに考えさせる場をつくった。そして、七保っ子祭直前の二週間ほど前に、国語科「未来がよりよくなるために」の教材で、これまで学んできたことや考えてきたことをもとに、戦争や平和に対する思いを意見文として書く学習をおこなった。これは、期日がせまってきた七保っ子祭にむける気持ち、意気込みがさらに高まることを期待していたからである（※資料3）。

そして、子どもたちの話しあいや意見文のことばを取りいれながら、呼びかけのシナリオを完成させることができた（※資料4）。

⑦ 学習発表会 ～伝えよう 平和へのメッセージ～

小学校最後の学習発表会であることに、子どもたちは強い意欲・やる気を見せていた。体育館での練習期間は一週間あまり。わたしが指示するところはもちろんあったが、うれしかったのは、群読や呼びかけの練習を子どもたちが自主的におこなったことである。練習の時には早々と体育館へ入り、指定の位置にグループで集まっては、大きな声を体育館に響かせるのがとても印象的だった。また、声を出しにくい子に対して、もっと出せるようにと責めるのではなくアドバイスをしたり、体育館の後ろへ行っては声の聞こえ方を確かめたりと、温かい雰囲気の中で練習をする子どもたちがとてもほほえましかった。

そして迎えた七保っ子祭当日。練習の成果が十分発揮できた学習発表会であったように思う。ちなみに発表の補助として、PCのスライドで挿絵・写真・歌詞等を提示した。子どもたちの思いを会場中に伝える一助となったのではと思っている。

3 所感

幼少のころ、一時期ではあるが祖父母の家で育てられたことのあるわたしは、そのころから昔話をよく聞かされていた。当時、嫁いだばかりの祖母を残して祖父が出征したこと、生活に苦しみながらも祖父の帰りを待ち望んでいたこと、祖父が生きて帰ってきたときには涙がこぼれ落ちたことなど、当時の心境を何度も繰り返し聞かされた。そうした経験もあってか、戦争がいかに理不尽で、多くの人々を苦しめるものであるかということ幼いころから感じとっているつもりである。

しかし、冒頭にも述べたように戦後 70 年を過ぎ、戦争体験者が年々少なくなっている現状がある。そして、いつかは戦争の語り部がこの世からいなくなる日が来る。当時の人々の思いが時代の流れによって風化されていくことは、仕方のないことなのだろうか。わたしは、そうは思っていない。わたし自身、戦争を体験したわけではないが、祖父母だけでなくこれまでにたくさんの方々に話を聞かせていただいた。そうした経験が、今のわたしの戦争や平和への思いを強化してくれているのだと感じる。

そして、目の前の子どもたちにできることは何か。やはり、自分が教わったことを伝えていくこと、「平和とは何か」を問いつづけることなのだと思う。ゲームなどの架空の世界で簡単に人を殺したり、自殺にまで追い込むほどのいじめをしたりと、子どもたちの現実と空想の感覚のズレには大きな課題があると感じる。今回とり上げた子どもたちも例外ではない。ただ、平和学習をすすめることと同時に、わたしの体験談や思いも機会を見つけては伝えてきた。そして子どもたちにも、「戦争体験者から聞ける最後のチャンスであること、君たちが次の世代の語り部になること」も伝えてきた。

今回の実践の大きな反省は、戦争体験者を学校に招くことができなかったことにある。夏休みに聞き取りをした子どもたちからも、学校で話をしてくれるように依頼させたり、わたしも、

保護者をつうじてお願いしたりと努めたが、地域性もあるのか学校に出むいてまで話をしたくないという方々ばかりであった。この点については非常に残念でならない。

ただ、子どもたちは今回の活動をつうじて大きく成長できたように思う。何より、自分たちで考え、活動する姿が大いに見られたことを嬉しく感じた。「身近な人と幸せな生活を送ることが平和である」との意見がとて多かった子どもたち。この思いをいつまでももち続け、個々に思う平和の実現のために努力し、さらに成長して行ってほしいと遠くから願っている。

資料1

戦争について、みなさんはどんなことを知っていますか？
簡単に紹介すると・・・

1900年代、日本は世界各国を相手に大きな戦争を立て続けに行いました。
そして1945年、広島、長崎に原子爆弾（原爆）という人類史上最恐最悪の兵器が
投下され、たくさんの人の命が亡くなりました。
日本は降伏（こうふく）することを決め、8月15日に戦争の終結をむかえました・・・。

今の日本は、戦争をせず平和な暮らしを送ることができます。
では、当時はどうだったのでしょうか。

人々の生活は大変だったのでしょうか？
みんなが戦いをしていたのでしょうか？
戦争なんてやめようとうったえた人はいなかったのでしょうか？
日本人も、外国人を殺したのでしょうか？
だれが戦争をするよう命じたのでしょうか？
自分の意思で戦争をしていたのでしょうか？
小学生も戦ったのでしょうか？苦手な算数はしなくてもよかったのでしょうか？
恐くて、にげた人はいなかったのでしょうか？
食べ物や日用品はじゅうぶんだったのでしょうか？
そもそも、だれが、どんな理由で、どの国と戦争を始めたのでしょうか？

考えれば考えるほど、様々な疑問が出てきます。

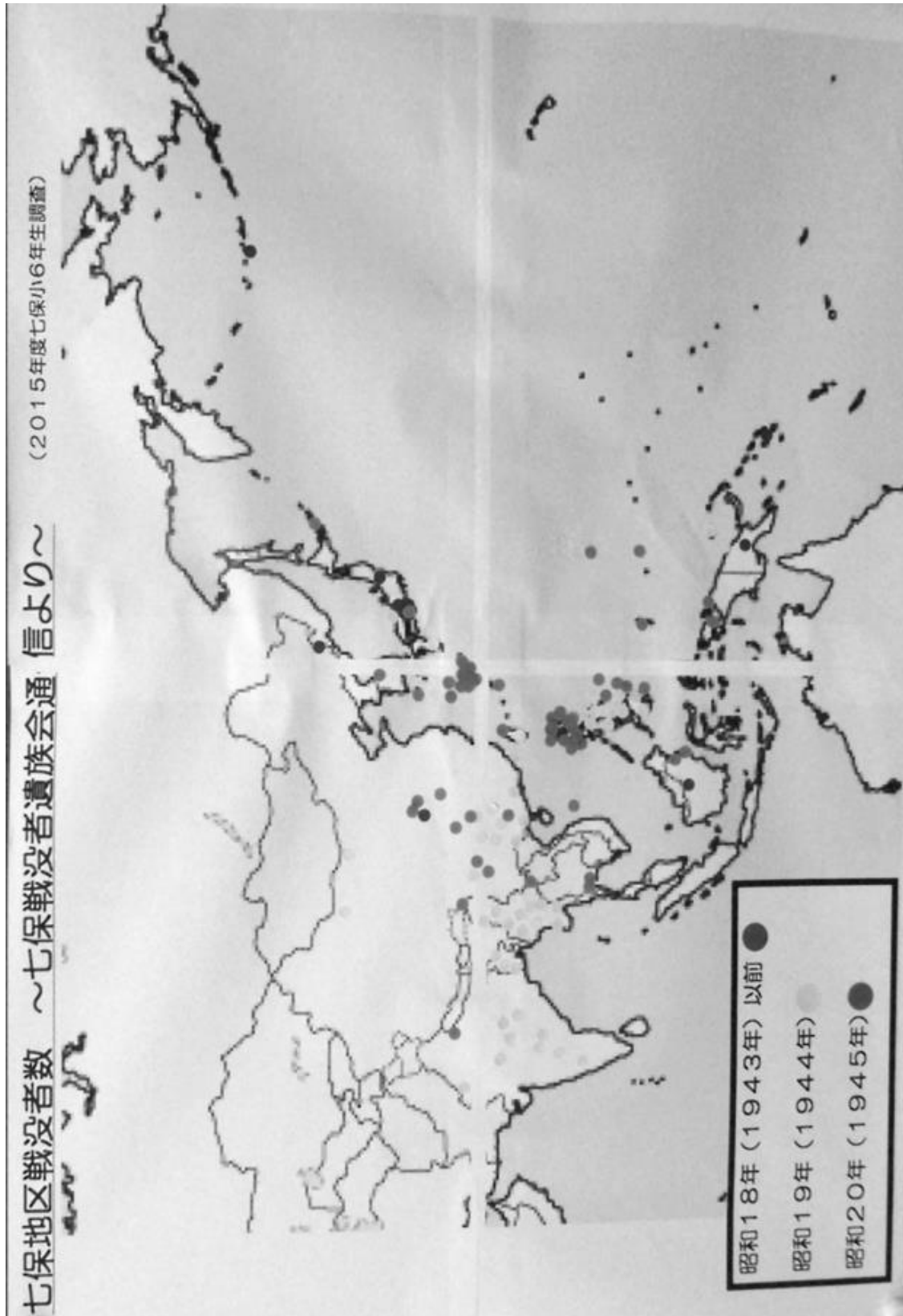
今年は2015年、つまり、「戦後70年」という節目の年です。
このまま時が流れていけば、戦争について知らない人ばかりになってしまいます。
日本人として、戦争の時代についてもっと知ること、そして、「平和」な世の中を続けて
いくためにはどうすればよいか、次の世代のあなたたちは考えていくべきだと思います。

そこで、以下のように学習を進めましょう。

- ① 教科書P.132～147を読む。
- ② 戦争に関わる本を読む。（物語、詩、資料集などもOK）
- ③ 内容をしぼって調べる。
（当時の学校について 食べ物や日用品などの生活について 兵隊さんについて
原爆などの兵器について 日本と外国の関係について 一般人について など）
- ④ 戦争に関わるテレビや新聞を見る。（日付や放送局、新聞社も記録する）
- ⑤ 戦争を体験した人（戦争体験者）の話を聞く。（お名前と年齢も記録する）
- ⑥ 戦没者（戦争でなくなった人）の墓石を調べさせてもらう。
（墓石には、氏名、戦没地、戦没年、亡くなった年れい等がのっているので、記録をする）

調べたこと、見たり聞いたりしたことを、**プリント5枚以上**にまとめます。
（内容は、複数ある方が、先生がうれしいです。）

戦争の話を聞かせてもらえる人を、先生さがしています。2学期に「学校に行って話してあげてもいいよ」という方がみえたら、ぜひ教えてください。



※ シールの色は青、黄、赤の3色に、年別に分けてある

資料3: 児童意見文

「一人の笑顔が笑顔を生む」 (A)

日本は、戦争の被害者なのだろうか。この疑問が私の頭にある。なぜなら、日本から攻めきしていった国もあり、日本だけが攻めきされたのではないからだ。世界中の人たちが、苦しみ、悲しみ、泣いたのが戦争だ。だから、日本が戦争の被害者になるのはおかしいと私は思う。

夏休みに戦争のことについて勉強していて、「原子爆弾」という核兵器が気になり、「ぼくは満員電車で原爆を浴びた(11歳の少年が生きぬいたヒロシマ)」という本を読んだ。この本を読んだのには二つの理由がある。一つは、「満員電車で」というキーワードがひっかかり、くわしく知りたいと思ったからだ。二つ目は、11歳の少年という、私たち6年生と同じくらいの年れいの子から見た、原子爆弾が書かれているからだ。この本の最後に「ぼくはたまたま生きているけれど。」という文がある。この文を聞くと、死ぬのがあたりまえのように聞こえる。それほど、原子爆弾の力は強かったのだろう。

しかし、原子爆弾という最強最悪の兵器を落とされたのは、日本だけだ。そう考えると日本は、戦争の被害者のように思うだろう。でも、日本は、原子爆弾を2回も落とされるほどのことを外国にした。アメリカ軍が日本に原子爆弾を落としたのは、理由があるのではないかと思い、自分で考えてみた。日本は、アジアなどに攻めていき、調子にのっていた。それがどれだけの被害をもたらしたのか日本に分かせようと、原子爆弾を落としたのではないかと考えた。

そして、もう二度と戦争を起こさないようにするためには、今の時代を生きていく私たち一人一人が平和であって幸せであることだ。そのためには、笑顔が平和、幸せの証だと思う。それから、一人の笑顔が笑顔を生むから、みんなが平和、幸せの証をつけていよう。

「人のことを考える」 (B)

ぼくが、考える平和というのは、人を思いやる気持ちを持つ人がたくさんいることだ。このような人がいることで、もっと明るい未来が来ると考える。

夏休みに、おじいさんから戦争中の話をいろいろ聞いた。戦争中の食事や生活の様子を聞いてみると、今の時代は、平和で幸せなんだと、改めて感じた。

もっと戦争のことを知りたい。そう思い、本をいろいろ読んでみた。その中には、中国人の人など敵の国の人を差別していたことも書いてあった。そんなときに、ぼくが考える、人を思いやる気持ちを持った人がいっぱいいたら、みんなが平和になれると思う。

ただ、人はそれぞれ気持ちがちがう。確かに、みんなが同じ気持ちだったら、まず戦争は起こらない。だけど、少しだけ人のことを考えてみる。すると、その人たちのことがわかって優しくなれると思うのだ。

今の時代は、とても最高だ。だから、このことを今も戦争をしている国に教えてあげたい。そうすると、世界はもっと平和になると思う。ぼくは、人を思いやる気持ちを持つことと、戦争を二度と起こさせないことをできるようにがんばりたいと思う。

「私たちの未来が平和であるために」 (C)

自分たちの未来が平和であってほしい。これは、私が願っていることだ。そのためには、身近な人といつでも仲よく、いつでも楽しく暮らせることが大切だと私は考える。

私たちのクラスでは、夏休みの宿題や社会の授業で戦争のことを勉強している。そして、もう二度と戦争はしてはいけないし、核兵器など地球上には必要ないと分かった。

私は、身近な人たちと今の時代のように毎日がおだやかな生活でいられることは本当にうれしいことだと思っている。しかし、永久にこの平和な暮らしが続くとは限らない。

そこで、小さなことでも、自分たちにできることをやっていくことが未来の平和な暮らしが続くことにもなると思った。

しかし、私は、自分の生活をふり返ってみて、友達に言葉や態度などで、いやな思いをさせてしまったこともある。さらに、弟とけんかをして、お母さんを困らせてしまうこともある。だから、これからは友達にいやな思いをさせないよう、言葉や態度を考えて使うようにしようと考えた。さらに、家族を困らせてしまったら、その場ですぐにあやまりたいと思った。

今の暮らしがずっと続いてほしい。そして、身近な人といつでも仲よく、いつでも暮らせることを続けていくために、自分にできることをしていきたい。

伝えよう 平和へのメッセージ

資料4:シナリオ

番号	グループ	名前	セリフ
1	—		伝えよう！！
2	全員		平和へのメッセージ！！！！
※			幕を開ける
3	AL		私たち6年生が学んでいること。それは・・・
4	A	A全員	戦争・・・
5	BL		僕たちが生まれる、ずっと前にあった・・・
6	B	B全員	戦争・・・
7	CL		たくさんの人々が苦しんだ・・・
8	C	C全員	戦争・・・
9	DL		尊い命が亡くなった・・・
10	D	D全員	戦争！
12	AB	AB全員	戦争！！
13	ABC	ABC全員	戦争！！！！
14	ABCD	全員	戦争！！！！
15	—		今からお話するのは、戦争の時代の悲しい物語。
16	—		朗読 「おとなになれなかった 弟たちに・・・」
■	先生		スクリーン 変える
朗読劇「大人になれなかった弟たちに・・・」			
■	先生		スクリーン 変える
1	A		物語に出てきた言葉
2	A	A全員	「配給」！
3	A		戦争に行っている兵隊さんのために、食料などを送らなければなりません。
4	A		人々にとって生活に必要なものがどんどん少なくなり、
5	A		国から決められたものしかもらえなくなったのが、配給制です。
6	AL		ぜいたくは敵だ！
7	A	A全員	ぜいたくは敵だ！！
8	A		そうやって人々は、戦場で戦う兵隊さんのことを思いながら、
9	A		耐え忍ぶ生活をしていました。
10	AL		ほしがりません 勝つまでは！
11	A	A全員	ほしがりません 勝つまでは！！
12	A		子ども達はそう言い聞かされて、
13	A		食べたい物も食べられず、
14	A		おなかがすいてもわがままが言えず、
15	A		がまんを積み重ねていました。
16	A		ヒロユキのように、栄養失調で亡くなった子もたくさんいたでしょう。
17	A		おいしい食べ物が食べられないなんて、かわいそう・・・
18	A		自分の好きな物が食べられないなんて、かわいそう・・・
19	A		おなかがすいても、おなかいっぱい食べられないなんて、かわいそう・・・
20	A		栄養がたりなくて、死んでしまうなんて、かわいそう・・・
21	AL		みなさんも、想像してみてください。
22	A	A全員	食べ物がなくなる 生活を！！
■	先生		スクリーン 変える
1	BL		空から、爆弾が落ちてくる！
2	B	B全員	「空襲」！
3	B		僕の家が、焼け落ちた・・・
4	B	B全員	「空襲」！

5	B		街が、焼け野原になった・・・
6	B	B全員	「空襲」！
7	B		それでも人々は生き延びようと、
8	B		住み慣れた地元をはなれることを決意した
9	B	B全員	「疎開」！
10	B		家族とはなれて暮らさなければならなくなった、たくさんの子ども達
11	B	B全員	「学童疎開」！
12	B		ふるさとを奪われるなんて 信じられない
13	B		家族とはなれて暮らすなんて つらいよ
14	B		いきなり爆弾が落ちてきたら、どうしよう・・・
15	B		七保が、焼け野原になったら、どうしよう・・・
16	B		家族と会話もできないなんて、どうしよう・・・
17	B		ふるさとの様子が分からなくなるなんて、どうしよう・・・
18	BL		みなさんも、想像してみてください。
19	B	B全員	家族とはなれて暮らす生活を！！
■ 先生			スクリーン 変える
1	CL		すべては、「お国のために」
2	C	C全員	「お国のために」！
3	C		そう言って、戦場へと旅立った、たくさんの兵隊さん
4	C		兵隊に選ばれたということは、出世と同じ
5	C		盛大に見送った、家族や地域の人々
6	C		兵隊さん、本当にうれしかったんですか？
7	C		家族とはなれてまで戦争に行くことが、誇りだったんですか？
8	C		戦争が終わって、生きて帰ってきた人もいると聞いたけれど、
9	C		私たちが調べた、七保の戦死者・・・。
10	C		家族と会えず、遠い地で亡くなった、七保の兵隊さん・・・
11	CL		「名誉の戦死」
12	C	C全員	「名誉の戦死」！！
13	C		戦争で死ぬことは、立派なことなんですか？
14	C		尊い命を失うことに、どんな価値があるのですか？
15	C		戦いたくなかった兵隊さんもいたろう・・・
16	C		知らない場所で亡くなったことは、どんなにつらかったらう・・・
17	C		もし、お父さんが戦争に行くことが決まったら、心から喜ばなかったらう・・・
18	C		もしお父さんが戦争で死んでしまったら、残された私たちはどんなにつらいだらう・・・
19	CL		みなさんも、想像してみてください。
20	C	C全員	大切な人が いなくなることを！
■ 先生			スクリーン 変える
1	DL		「ピカドン」！
2	D	D全員	「ピカドン」！！
3	DL		そう呼ばれるのは、人類史上最悪の兵器、「原子爆弾」
4	D	D全員	「原子爆弾」！
5	D		原子爆弾で亡くなった人は・・・
6	D		ヒロシマでは、約14万人 大紀町の人口の、およそ14倍
7	D		ナガサキでは、約7万人 大紀町の人口の、およそ7倍
8	D		それも、たった1発の爆弾で・・・一瞬のうちに・・・
9	D		街は火の海・・・
10	D		体は真っ黒にこげて、目は見えなくなり・・・
11	D		かみの毛はすべてぬげ、皮ふはドロドロにとけていたという・・・
12	D		これが、人間のしたことなのですか？

13	D		私たちと同じ人間の、しわざなのですか？
14	D		もし原子爆弾が三重県に、七保に落ちていたら、どうなっていたのでしょうか？
15	D		1発の爆弾で、町や人を焼きつくすなんて、信じられますか？
16	D		こんな被害は、もう二度と起こしてほしくない・・・
17	D		こんな兵器、地球上には必要ない・・・
18	DL		1945年 8月15日
19	D	D全員	日本の戦争が 終わりました・・・。
■	先生		スクリーン 変える
1	-		夏休みに聞いた、戦争を体験された方々の思い
2	-		大変だったんだろうなあ・・・。
3	-		つらかったんだろうなあ・・・。
4	-		僕のおばあちゃんは、「もう二度と戦争を起こさないでほしい」と、話してくれた。
5	-		私のおばあちゃんは、「今の時代は最高の最高」と、話してくれた。
6	-		私のおばあちゃんは、「毎日毎日を平和でくらしてられることに感謝しなければならぬ」と、話してくれた。
7	-		私たちは想像することしかできないけれど、これだけは言える。
8	-		戦争はダメだ！
9		全員	戦争はダメだ！
10	AL		人々を苦しめる戦争
11	BL		命を奪う戦争
12	CL		悲しみをよぶ戦争
13	DL		何も残さない戦争
14	-		二度と起こしてはいけない！
15		全員	戦争！！！！
16	-		そして、忘れてはいけないこと。
17	-		それは、戦争の被害を受けたのは、日本だけではないということ。
18	-		世界中の人々が同じように苦しみ、悲しみ・・・
19	-		大切な人を失ったということ。
20	-		戦争が、国と国のけんかだったとしたら、
21	-		まずは、人と人のけんかをやめよう
22	-		自分のことだけじゃなく、他の人のこともちゃんと考えよう
23	-		みんなが笑顔になることが 平和！
24			家族や友達と 一緒に過ごせることが 平和！
25	男子		僕たちの未来が！
26	女子		私たちの未来が！
27	全員		みんなの未来が 平和であってほしい！！
28	-		私たちは、まだまだ知らないことだらけ。
29	-		だから、もっと戦争のことを学びます。
30	-		そして、私たちの未来が平和になるために、
31	-		自分にできることを考え、生きていきます。
32	-		最後に、平和を願う気持ちを込めて歌います。聞いてください。
33		全員	「HEIWAの鐘」！！！！
■	先生		スクリーン 変える
※			CDオン！マイクセット！
合唱「HEIWAの鐘」			
※			CDオフ
■	先生		スクリーン 変える
-			これで、6年生の発表を終わります。
-			気を付け、礼！！